

子どものグリーフケアに携わるファシリテーターの活動とその思い

第2報 – 自由記述内容からみえたこと –

○工藤 悦子¹⁾ 荃津 智子²⁾ 守口 絵里²⁾ 三宅 靖子³⁾ 長谷川 由香⁴⁾

1) 日本医療大学保健医療学部看護学科 2) 京都光華女子大学健康科学部看護学科 3) 姫路獨協大学看護学部看護学科 4) 佛教大学保健医療技術学部看護学科

目的

子どもを対象としたグリーフケア活動に携わっているファシリテーター、運営責任者の活動の様子や実態は第1報で報告した。第2報では、質問紙の自由記述の「グリーフケア活動を通して日頃から感じていること」に焦点をあて報告する。

方法

調査は①質問紙調査、②面接調査の2段階で行った。①は無記名自記式質問紙を用いて行い、自由記述はテキストマイニング法にて分析した。フリーソフトウェアKH Coder3を用い、形態素解析後に抽出した語を「 」で示す。

調査期間は2022年10月～2023年3月である。本研究は、京都光華女子大学研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号134）。

結果

子どものグリーフケアの活動を通して、日頃から考えていることについての自由記載内容をテキストデータとして分析を行った。総抽出語は1,548語であった。

● 特徴語上位10語

表1に自由記載の特徴語上位10語を示す。特徴的な語の上位10語は、「子ども」「活動」「気持ち」「自分」「人」「感情」「親」「安心」「過ごす」「考える」であった。

表1 自由記載の特徴語上位10語

	抽出語	出現回数
1	子ども	35
2	活動	9
3	気持ち	9
4	自分	9
5	人	9
6	感情	6
7	親	6
8	安心	5
9	過ごす	5
10	考える	5

● 共起ネットワーク

図1に自由記載から抽出した語の共起ネットワークを示す。

出現回数が多い語ほど大きな円で描写し、円の色が同じ語はサブグラフとし、同じサブグラフは実線、お互いに異なるサブグラフは破線で結んだ。なお、円同士の距離関係自体は意味を持たない。共起ネットワークはJaccard係数に基づき、強い共起関係ほど濃い線で示し、Jaccard係数は0.4～1.0であった。

大切な人を亡くした子どもについては、「苦しみ」「辛い」ことがあること、「親」を「亡くす」経験をした子どもたちがいること、大切な人を「亡くす」経験をした子どもを支える「親」も「辛い」こと、「話す」「時間」を「作る」べきとの回答と「話す」「時間」を作ったことはないとの回答があった。場の必要性については、「必要」な「人」に「届く」ように「場」が「必要」との回答と子ども本人が「必要」だと感じることは少ないとの回答があった。

感情を受けとめるについては、「悲しい」気持ちだけではなく「すべて」を「受けとめる」との回答であった。大切なことについては、時間や話すことを「共有」すること、活動ごとに「毎回」「課題」を感じ、「今」を大切にすること、「家庭」を大切にすることに関する回答があった。支援については、「支援」は参加者を増やす「方向」に「働く」こともあるが、「支援」の質を下げ「方向」に「働く」との回答もあった。環境の理解については、子ども自身が自分の「環境」を「理解」することと子どもが安心できる「環境」に関する回答があった。

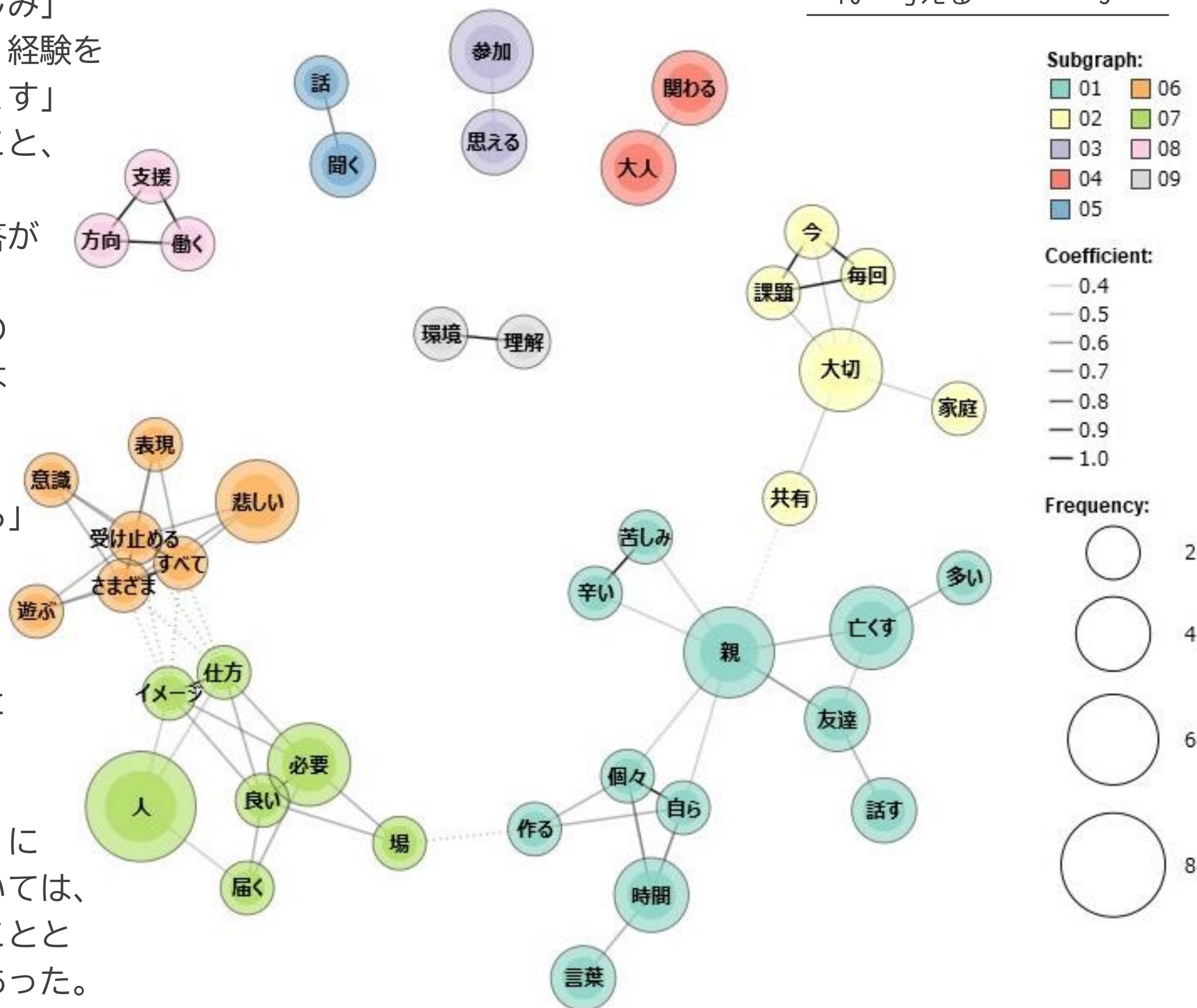


図1 自由記載から抽出した語の共起ネットワーク

考察

活動を通して、子ども自身へのかかわりに課題を感じながらも子どもが抱える様々な感情を受けとめていることがわかった。同時に、大切な人を亡くした子どもを支える親、家庭の存在も大切にして活動を行っていることが明らかとなった。

また、「場」「時間」のあり方を考えていく必要があることも示唆され、さらなる検討を進めたい。 ※COI開示事項なし